

氏名	長谷川 晴 己		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	甲 第 3 5 8 号		
学位授与の日付	昭和47年 3 月31日		
学位授与の要件	医学研究科内科系内科系学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学位論文題目	ヒト末梢血由来芽球様株細胞に関する研究 第1編 リンパ芽球様株細胞の樹立 第2編 螢光抗体法による研究		
論文審査委員	教授 大 森 真	教授 小 坂 淳 夫	教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒト末梢血白血球45例の長期培養を試み、44～87日後に伝染性単核球症、SMON および 白血病由来の9系の株細胞を樹立した。樹立株細胞はすべて peroxidase 反応陰性で未熟なリンパ芽球様の形態を呈し、染色体はいずれの系でも 46 にモードを有し、ヒト正常2倍体を示した。培養を試みた donor はすべて EB ウイルス (EBV) 抗体陽性であった。培養の初期、少数の macrophage とリンパ球に EBV 抗原が出現し、株化後もすべての細胞系に少数ながら EBV 抗原が出現し、株化後もすべての細胞系に少数ながら EBV 抗原がみつめられた。

EBV は本邦人の殆んどに伝播しているが、新生児も抗体を保有していて、その抗体価は母親のそれとほぼ相関関係にあることが証明された。

今回の実験観察より、リンパ芽球様株細胞は末梢血中の少数のリンパ球に由来し、この細胞が培養中に抗原刺激を受けて、blastoid transformation を起こしたものと推測される。この抗原刺激として株細胞に存在した EBV が作用した可能性が示唆される。

(2編共に、昭和46年12月30日発行 岡山医学会雑誌83巻11, 12号に掲載予定)

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、ヒト白血球長期培養による株細胞の樹立について研究したものであるが、長期培養によるリンパ芽球様細胞の株細胞の樹立に成功するとともに、従来から問題になっている BE Virus と blastoid transformation との関係について重要な知見を得たものとして価値あるものと認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があるものと認める。